

必修の基本的事項

基準値を理解すべき検査項目 (基準値を明記しない検査項目)

血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球
	ヘモグロビン<Hb>
	ヘマトクリット<Ht>
	白血球
	白血球分画
・凝固・線溶 能検査 血小板機能	血小板
	プロトロンビン時間<PT>(PT-INRを含む)

免疫血清学検査

分類	項目
マーカー 炎症	C反応性タンパク<CRP>

生体機能検査

分類	項目
ガス分析 動脈血	pH
	PaCO ₂
	PaO ₂
機能呼吸	経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >

生化学検査

分類	項目
タンパク分画	総タンパク<TP>
	アルブミン<Alb>
色素生体	総ビリルビン
	直接ビリルビン
ソザイム 酵素、アイ	AST
	ALT
成分 含窒素	尿素窒素<BUN>
	クレアチニン<Cr>
糖代謝関連	{随時}血糖
	空腹時血糖<FBS>
	HbA1c
謝関連 脂質代	総コレステロール<TC>
	トリグリセリド<TG>
酸塩基平衡 電解質・	Na
	K
微量元素 重金属、	Fe

栄養学検査

分類	項目
血液生化学 検査	総タンパク<TP>
	アルブミン<Alb>

大項目	中項目	小項目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療 b 医療者の倫理(ニルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など)
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療(インフォームド・コンセント、セカンドオピニオンなど) b 患者の権利
2 社会と歯科医療 約11%	ア 患者・障害者のもつ心理社会的問題と背景	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)
		b QOL<quality of life>
		c リハビリテーションの理念
		d ノーマライゼーション、バリアフリー
		e 患者・障害者の心理と態度
		f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH>
		g 疾病構造、健康格差
	イ 保健・医療・福祉・介護の制度と医療経済	a 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法
		b 医療法
		c 介護保険法
		d 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
		e 保健・医療・福祉・介護の制度と職種
		f 地域包括ケアシステム
		g 地域歯科保健活動での職種の連携
		h 国民医療費、社会保障費
	ウ 臨床試験・治験と倫理	a 臨床研究、疫学研究の倫理指針
		b GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>
	エ 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書、同意書
		c クリニカルパス
オ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤	
	b 医療事故の発生要因	
	c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)	
	d 医療者の安全管理	
	e 医療危機管理<リスクマネジメント>	
	f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート	
	g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)	
	h 医療事故調査制度	
カ 院内感染対策	a 標準予防策<standard precautions>	
	b 抗菌薬の適正使用<antimicrobial stewardship ; AMS>と薬剤耐性<antimicrobial resistance ; AMR>	
	c 医療廃棄物処理	
	d 院内感染対策委員会	
キ 医療裁判	a 医事紛争、賠償	
	b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)	
ク 医薬品医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)	

大項目	中項目	小項目	
	ケ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理	
	コ 診療録、診療情報の記録と管理	a 診療に関する記録(診療録、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)の管理・保存	
		b SOAP(主観的所見、客観的所見、評価、計画)	
		c 個人情報の保護	
		d 診療情報の開示	
3 チーム医療 約3%	ア チーム医療の意義	a 多職種連携	
		b 医科歯科連携	
		c 病診連携	
		d 医療チームの構成員と役割	
	イ チーム医療における歯科の役割	a かかりつけ歯科医	
		b 在宅医療(訪問歯科診療を含む)	
		c 情報提供	
		d セカンドオピニオン	
4 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念	
		b プライマリヘルスケア	
		c ヘルスプロモーション	
		d 健康日本21(第二次)	
		e メタボリックシンドローム	
		f 行動レベル、行動変容	
	イ 地域保健にかかる法規と制度	a 地域保健法、健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律	
		b 母子保健	
		c 学校保健	
		d 産業保健	
		e 成人・高齢者保健	
		f 健康危機管理	
	ウ 予防手段	a フッ化物応用	
		b 保健指導	
		c 口腔清掃	
	エ 口腔健康管理	a 口腔衛生管理のための口腔ケア	
		b 口腔機能維持向上のための口腔ケア	
		c 病期に応じた口腔ケア	
	5 人体の正常構造・機能 約16%	ア 全身・口腔の構造と機能	a 生体構成成分の構造・機能
			b ゲノム、遺伝子、染色体
c 細胞・細胞小器官の構造と機能			
d 組織(上皮組織、結合<支持>組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)			
e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)			
f 免疫(免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫)			

大項目	中項目	小項目	
	イ 全身・口腔の生態系	<ul style="list-style-type: none"> a 常在微生物叢 b 微生物の構造・一般性状 c プラーク<口腔バイオフィルム> 	
6 人体の発生・成長・発達・加齢 約5%	ア 人体の発生	<ul style="list-style-type: none"> a 生殖形成、排卵、受精、着床 b 二層性胚盤、三層性胚盤、胚子期、胎児期 	
	イ 人体の発育	a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)	
		b 発育期の特徴	
		c 成長・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)	
		d 小児の生理的特徴	
	ウ 口腔・顎顔面の成長・発育	a 歯・歯列の発育(発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)	
		b 上顎骨・下顎骨の成長の特徴(成長の時期、骨形成様式)	
	エ 加齢、老化	a 細胞・組織・臓器の加齢現象(歯および口腔を含む)	
		b 高齢者の生理的特徴	
		c 高齢者の心理的特徴	
7 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	a 健康・疾病の概念	
		b 先天異常	
		c 損傷	
		d 炎症	
		e 感染症	
		f 免疫異常	
		g 腫瘍	
		h 循環障害	
		i 代謝障害、萎縮、壊死	
		j 病的増殖	
		k 精神・神経疾患	
		l 放射線の影響	
		イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念	a 歯の硬組織疾患
			b 歯髄疾患、根尖性歯周疾患
	c 歯周疾患		
	d 不正咬合		
	e 咀嚼障害		
	f 摂食嚥下障害		
	g 先天異常		
	h 損傷		
	i 嚢胞(歯源性、非歯源性)		
	j 腫瘍、腫瘍類似疾患		
	k 顎関節疾患		
	l 口腔粘膜疾患		
	m 唾液腺疾患		
	n 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患		
	o 薬物・放射線による有害事象		
	p 精神・心身医学的疾患		

大項目	中項目	小項目
8 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、脱水、浮腫、けいれん、めまい、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嘔吐、下痢
	イ 口腔・顎顔面領域の症候	a 一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬さの異常、触覚の異常、機能障害(開口障害など))
		b 歯の症候(齶蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄・根尖歯周組織の症候(自発痛、誘発痛)
		d 歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候(不正咬合)
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(筋痛、圧痛、運動麻痺、関連痛)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候
		l 感覚異常(味覚、体性感覚)
	ウ 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 貧血に伴う症候(舌炎など)
		b 出血性素因に伴う症候(歯肉出血、抜歯後出血など)
		c 急性白血病に伴う症候(歯肉出血など)
		d 後天性免疫不全症候群<AIDS>に伴う症候(カンジダ症、歯周疾患、毛状<様>白板症など)
		e ウイルス感染に伴う症候(水疱など)
		f 結核・梅毒に伴う症候(粘膜斑、潰瘍など)
		g 金属アレルギーに伴う症候
h 糖尿病に伴う症候(口腔乾燥、歯周疾患など)		
臓器・造血幹細胞移植に伴う症候(歯肉出血、移植片対宿主病<GVHD>など)		
i 脳血管・神経・筋疾患に伴う症候(摂食嚥下障害など)		
k 他臓器癌に伴う症候(遠隔転移など)		
l 認知症患者、要介護高齢者にみられる症候(カンジダ症、口腔乾燥、摂食嚥下障害など)		
エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 歯の変色、歯肉肥大<歯肉増殖>、多形{滲出性}紅斑、抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象<菌交代症>に伴う症候、顎骨壊死、唾液分泌量減少・増加、味覚異常	
9 診察の基本 約7%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b 心理社会的側面(プライバシー、尊厳)・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明・声かけ・例示
	イ 基本手技	a 視診、触診、打診、聴診
		b 患者の体位(立位、座位、半座位、仰臥位、側臥位)
		c 術者の姿勢・位置

大項目	中項目	小項目
	ウ 医療面接	a 意義、目的(医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加)
		b マナー(身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応)
		c 聴取事項(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望)
	エ 全身の診察	a 全身の外観(体格、栄養、姿勢、歩行、発語)
		b 意識状態、精神状態、認知機能
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)
	オ 口腔・顎顔面の診察	a 顔貌、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 所属リンパ節
		d 唾液腺
		e 顎関節・筋(下顎運動)
	カ 歯列・咬合状態の診察	a 歯列弓の形態・大きさ
		b 前歯部の被蓋・咬合状態
		c 臼歯部の咬合状態
	キ 歯・歯周組織の診察	a 歯と修復物の所見
b 歯髄・根尖歯周組織の症状		
c 歯周組織の症状		
10 検査・臨床判断の基本 約11%	ア 意義と目標	a 診断
		b 治療効果の判定、治療経過の評価
		c スクリーニング、医療情報の収集
	イ 検査の安全性	a 実施(必要性)の説明
		b 患者・検体の確認
		c 検査の合併症・リスク
	ウ 基準値と結果の解釈	a 基準範囲の概念
		b 生理的変動、異常値と原因
		c 性差、年齢差
		d 症候・病歴(既往歴、投与薬物)との関連
	エ 検体検査の種類	a 一般臨床検査
		b 血液学検査
		c 生化学検査
		d 免疫血清学検査
		e 微生物学検査
オ 口腔・顎顔面の検査	a 硬組織・歯髄・根管の検査	
	b 歯周組織の検査	
	c 顎関節の検査	
	d 筋の検査	
	e 唾液腺の検査	
	f 口腔機能の検査	
	g 感覚(味覚、体性感覚)の検査	

大項目	中項目	小項目	
	カ 画像検査	a 放射線の性質と作用	
		b エックス線撮影装置、検出器、撮影補助器材	
		c 放射線の防護・管理	
		d エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査)	
		e CT(単純、造影)	
	キ 病理学検査	a 細胞診	
		b 組織診	
	ク 根拠に基づいた医療 <EBM>	a 意義、患者への適用	
		b システマティックレビュー、メタ分析<メタアナリシス>	
		c 診療ガイドライン	
		d 臨床疫学的指標(アウトカム、リスク比、オッズ比)	
		e 費用対効果	
	11 初期救急 約2%	ア 救急患者の診察	a 救急処置を要する症状および病態(心停止、失神、ショック、けいれん、頭痛、運動麻痺、呼吸困難、胸痛、アレルギー症状、誤飲、誤嚥)
			b バイタルサインの把握
			c 意識障害の評価
d 病態の評価と疾患(全身的偶発症を含む)の鑑別			
イ 救急処置	a 一次救命処置<BLS>		
	b 静脈路確保、酸素療法、救急医薬品		
12 治療の基礎・基本 手技 約13%	ア 治療の基本	a 意義と目標(アウトカム)	
		b 種類と特性(原因療法、対症療法、保存療法、根治療法、緩和療法)	
		c 治療の場(外来、入院、在宅医療(訪問歯科診療を含む))	
	イ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境	
		b 患者の体位	
		c コミュニケーション	
		d チーム医療	
	ウ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット	
		b 治療に用いる基本的器材	
	エ 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法	
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作	
		c 手術室	
		d 標準予防策<standard precautions>	
	オ 注射法の種類	a 皮内	
		b 皮下	
		c 筋肉内	
		d 静脈内	
	カ 麻酔法	a 局所麻酔	
b 全身麻酔			
c 精神鎮静法			
キ 創傷の処置	a 洗浄、消毒		
	b 止血		
	c 縫合		

大項目	中項目	小項目
	ク 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置	a 抜歯
		b 歯の硬組織疾患の治療
		c 歯内療法
		d 歯周治療
		e 歯の欠損の治療
		f 不正咬合の治療
	コ 薬物療法	a 薬理作用(薬力学、主作用および副作用を含む)
		b 薬物動態
		c 薬物投与(連用および併用を含む)
	サ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	シ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食嚥下機能、構音機能)
		b 口腔機能管理
		c コミュニケーションと社会参加
	ス 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚)
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象(皮膚・粘膜疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器・リンパ系疾患、泌尿器・生殖器疾患、精神疾患、神経疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー性疾患、感染症、小児疾患など)
		c 日常生活動作<ADL>の評価
	セ 歯科材料・機器	a 基本的性質
		b 診療用器械、切削・研削工具、研磨材
		c 印象用材料
		d 模型用材料、ワックス
		e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料
		f 歯冠修復・義歯用材料
		g 成形技術・機器
		h 接着用材料、接着処理
		i 歯科矯正用材料
		j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料
13 一般教養的事項 約3%		ア 医学史、歯科医学史
	イ 医学・医療に関する人文・社会科学・自然科学・芸術などに関連する一般教養的知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基本的医学英語	